

◆今期間のポイント

<主要しょう乱の概要>

- 27日は、低気圧が北日本付近へ進む。別の低気圧が東シナ海から日本の南へ進む。
- 28日は、低気圧が日本の東へ進み、日本付近は冬型の気圧配置となる。
- 29日から30日は、冬型の気圧配置が続く。
- 31日は、高気圧が日本の南に移動し、冬型の気圧配置が緩む。東シナ海に気圧の谷が進む。

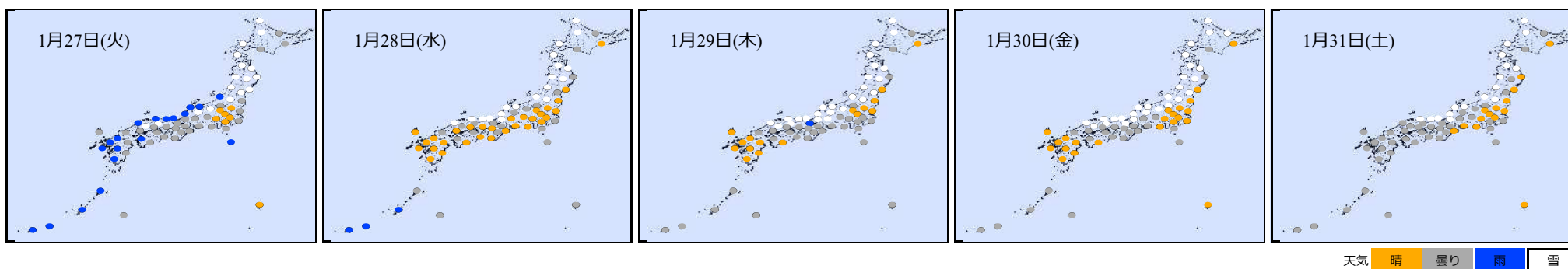
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

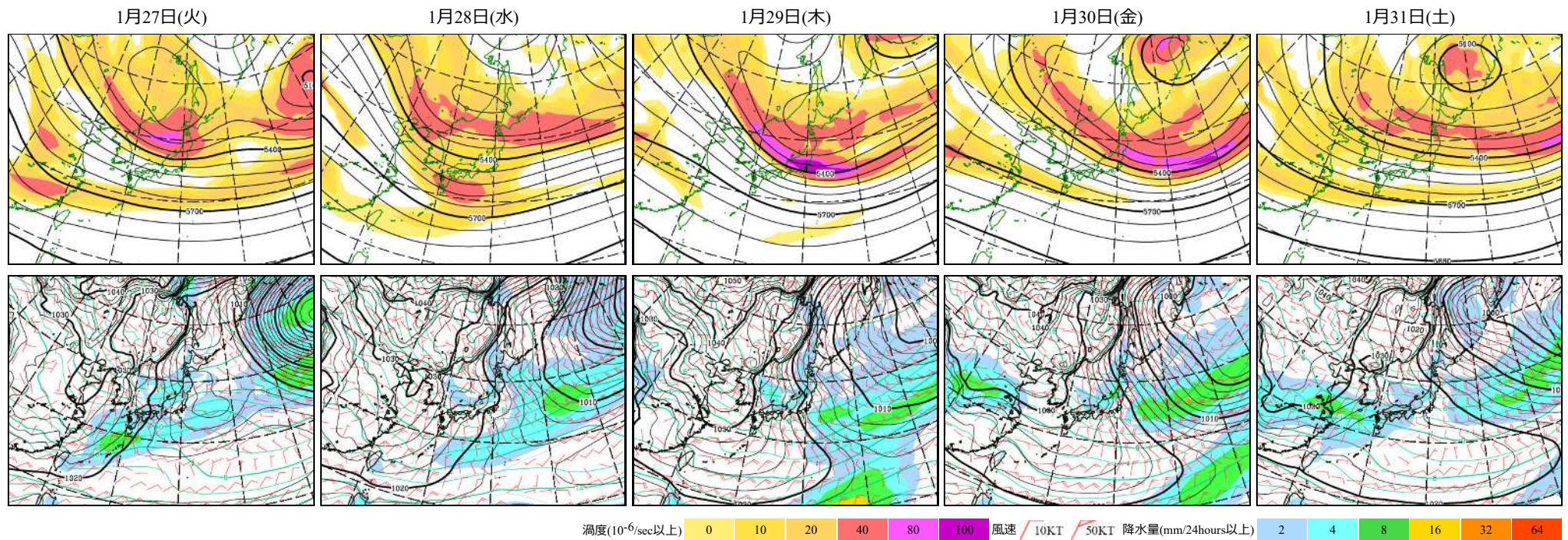
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

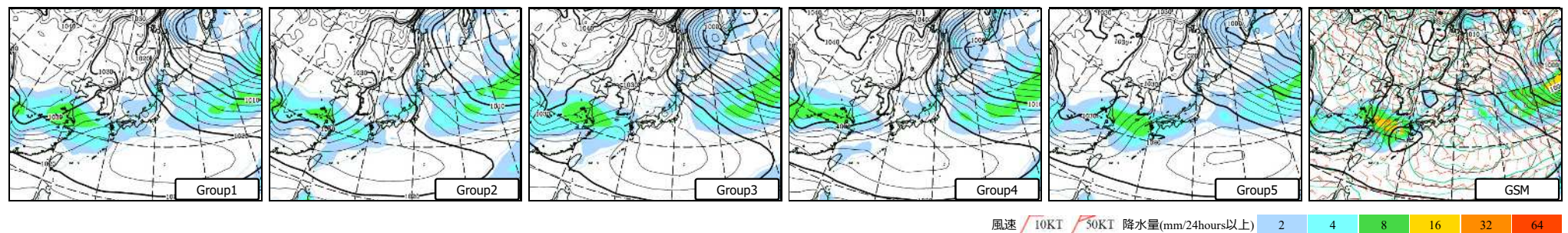


- 北日本と東日本から西日本にかけての日本海側は、曇りや雪または雨の降る日が多い。
- 東日本から西日本にかけての太平洋側は、晴れや曇りの日が多いが27日は雨の降る所がある。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすく、27日と28日は雨の降る所が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆1月31日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、大きな初期値変わりはない。31日はオホーツク海に寒冷渦が留まる予想になった。地上の気圧配置の予想も大きな初期値変わりはない。
- 30日頃まではモデル間の差は小さく、冬型の気圧配置が続く予想で揃っている。31日は初期値変わりしたモデルが多い。
- 31日は、GSMは九州の西、ECMは沖縄付近に低気圧を予想する。ENSは、各モデルに近いメンバーの他、本州南岸に低気圧を予想するメンバーや低気圧の予想がないメンバーも含んでいる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。